

渡良瀬遊水地による洪水貯留効果

渡良瀬遊水地は、増水した河川の水を一時的に貯めて洪水被害を防ぎ、地域と首都圏の安全な暮らしを守る重要な役割を担っています。普段は湿原や草原、水面が広がる遊水地ですが、洪水時には3つの調節池に流れを貯め込むことで、下流に流れる水の量を減らし、河道の負担を軽減します。



令和元年東日本台風

令和元年東日本台風の影響により、埼玉県久喜市にある利根川の栗橋水位観測所では**最高水位(9.61 m)**を観測し、**氾濫危険水位(8.90 m)**を10時間近く超過する大規模な洪水が生じました。

この出水では**渡良瀬遊水地**において、過去最大の洪水量となる約**1.6億m³**を貯留し、首都圏の洪水被害防止に貢献しました。



これまでの洪水貯留実績

年月	貯水量(百万m ³)	備考
昭和47年9月(台風20号)	2.4	昭和45年度 第1調節池 供用開始
昭和57年8月(台風10号)	18.1	昭和47年度 第2調節池 供用開始
昭和57年9月(台風18号)	33.4	
平成3年8月(台風12号)	6.6	
平成10年8月(前線)	8.5	平成9年度 第3調節池 供用開始
平成10年9月(台風5号)	63.3	
平成11年8月(熱帯低気圧)	3.0	
平成13年8月(台風11号)	2.1	
平成13年9月(台風15号)	81.2	
平成14年7月(台風6号)	78.3	
平成19年9月(台風9号)	53.7	
平成23年9月(台風15号)	49.4	
平成27年9月 関東・東北豪雨(台風17・18号)	107.3	
平成29年10月(台風21号)	55.3	
令和元年10月 東日本台風(台風19号)	164.4	既往最高貯留量

渡良瀬遊水地では、平成9年度の第3調節池の供用開始以降、令和3年3月現在までに11回の洪水貯留実績があります。

その中でも、令和元年東日本台風では既往最高、平成27年関東・東北豪雨では既往2番目となる貯水量を記録しました。

